

[6] 天王寺区南部

- 71 **生国魂神社** (天王寺区生玉町13)
- 72 **鯛屋貞柳墓所**: 承応3年(1654)南御堂前の菓子屋に生まれた貞柳は、俳諧師であった父や叔父の影響で早くから狂歌に才能を示した。それまで狂歌は俳諧師の余技に過ぎなかったが、貞柳以降職業的な狂歌師が輩出、太田蜀山人などが出て隆盛を極めたが、貞柳はその源流とされる。
(天王寺区下寺町一丁目3-64、光伝寺)
- 73 **竹田出雲墓所**: 人形浄瑠璃の歴史の中で、太夫の竹本義太夫、作者の近松門左衛門とともに代表的人物として挙げられる竹田出雲は、竹本座の興行に手腕を発揮した。また脚本作家としての才能にも秀で、「仮名手本忠臣蔵」「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」は現在も上演される傑作である。
(天王寺区生玉町3-19、青蓮寺)
- 74 **上島鬼真墓所**: 江戸時代の代表的俳人 鬼真は寛文元年(1661)伊丹の酒造家に生まれた。温厚篤実の人で小西采山と親交があり、また松尾芭蕉を尊敬し、その死の数日前に見舞に駆けつけている。
(天王寺区六万町2-10、鳳林寺)
- 75 **麻田剛立墓所**: 江戸時代の天文学者で豊後の出身。明和8年(1771)大阪に来て医業に従事する傍ら天文観測に没頭した。望遠鏡や反射鏡などの観測機器の改良に努め、ケプラーの第三法則と同じ法則を独創した。弟子に高橋至時・間長涯・山片蟠桃らがいる。
(天王寺区夕陽丘町5-3、浄春寺)
- 76 **伝藤原家隆墓**: 新古今和歌集の選者として知られる家隆は、藤原定家と並び称せられる鎌倉時代初期の歌人である。嘉禎2年(1236)この地に庵を結び、日想観を修め往生した。
(天王寺区夕陽丘町5)
- 77 **勝鬃院=愛染堂** (天王寺区夕陽丘町5-38)
- 78 **植村文楽軒墓所**: 人形浄瑠璃中興の祖とも言え、「文楽」の名称の元となった文楽軒ではあるが、その詳細はよく分かっていない。
(天王寺区下寺町二丁目2、円成寺)
- 79 **清光院=清水寺** (天王寺区伶人町5-8)
- 80 **増井の清水**: この辺りは良質の地下水が豊富に湧き出る場所で、「天王寺の七名水」とうたわれる井戸があった。増井はその一つで、元は上下2箇所の井戸があり、上段は侍方、下段は町人方に分けられていたというが、現在では1箇所のみが残っている。
(天王寺区伶人町5-35)
- 81 **安居神社・真田幸村鞍馬跡碑** (天王寺区逢阪一丁目3)
- 82 **一心寺** (天王寺区逢阪二丁目8)
- 83 **旧黒田藩蔵屋敷長屋門**: この長屋門は江戸中期の蔵屋敷の遺構をもつ数少ないものの一つである。元は中之島にあったもので、ビルの建設に伴い大阪市に寄贈され、この場所に移転した。
(天王寺区茶臼山町1、市立美術館南側)
- 84 **広瀬旭荘墓所**: 文化4年(1807)大分の日田で生まれた旭荘は、はじめ兄の学塾 咸宜園の経営を助けたが、30歳のときに来阪し堺に塾を開いた。詩に優れ、著述に励んだが、死の5日前まで書き綴った日記「日間瑣事備忘」は旭荘と当時を伝える貴重な資料となっている。
(天王寺区茶臼山町1-31、統国寺)



